

平成 28 年度 第 3 回学校協議会

平成 28 年度学校評議委員

氏 名	所 属・職 名	備 考
相川 真佐夫	京都外国語大学教授	会長
北堂 薫	高槻市立第二中学校長	
清水 信行	千里金蘭大学入学センター顧問	
林田 健治	(株)ベネッセコーポレーション高校事業部 大阪府担当	
田上 妙子	芥川高等学校後援会副会長	
金丸 里次子	芥川高等学校 PTA 会長	

開催日：平成 29 年 2 月 10 日（金）15:30～17:00

出席者：相川委員、清水委員、田上委員、金丸委員

事務局：河方（校長）、坂口（教頭）、原田（事務長）、大西・藤原（首席）、大島（進路指導主事）、松浦・早岡・川下（記録）

1. 資料確認

2. 協議（報告）

（1）学校の様子（首席）

学校新聞「芥川」232号～235号を用いて説明。

委員：部活動は顕著な成果を収めた部が記事になるが、地道に活動している部活動も紹介されると生徒の励みにもなるのではないか。

（2）平成 28 年度 授業アンケート報告（教頭）

今年度実施した 2 回の授業アンケートについてデータをもとに教頭より説明。

教頭：生徒が受けているすべての授業に対して回答する。年 2 回、9 項目の質問事項。座学と実習教科で質問内容は変えている。結果は個人ごとの結果票および自由記述を返却し、授業改善に役立ててもらっている。第 1 回目と比較して平均値が上がっている教科も多いが、そうでない項目が多い教科もある。担当者の交替等により、生徒が戸惑ったことも原因として考えられる。

委員：平均値が上がっているものもあるが、誤差の範囲ではないか。7 月と 12 月にアンケートを実施する意義は何か。その間の教員の取り組みで特別なことをしているのか。

教頭 発表などの活動をさせるなど工夫しているようだ。数値が特段に低い担当者には校長から授業改善シートを提示し助言を行っている。

委員：家庭科の専門教科など選択して自ら進んで取っているものについては高くなるのは当然。

委員：実技教科の方が平均値が高く出る傾向はある。

（3）平成 28 年度 学校教育自己診断報告（首席）

首席より、集計報告の資料を用いて説明。

首席：インターネットを介した回答率が上がったが、中学校では 90%以上の回収率だと聞いているのもっと回収率を上げる努力をしていきたい。

教頭：アンケートのシステムの変更により回答がしやすくなった。

首席：授業に関する設問は昨年までは「芥川高校の授業はわかりやすいか」としていたが、今年度は「芥川高校の授業に満足しているか」に変更したため、数値を単純比較はできない。校則や生徒指導上のルールに関する項目では教員と生徒の数値に格差がある。差を埋めていくことが必要。総合学習の時間の中でも学ぶ機会が増えたからか、人権に関する項目は数値が上がっている。

校長：「授業がわかる」だけでは学力が身についているかどうかわからないので「満足しているか」に変更した。

委員：校則を守っているかどうかは個人なので生徒と教員の回答は単純比較はできない。

首席：守っていない生徒は1部だけ。しかし、守っていない生徒が目につくと教職員は全体としてとらえてしまう。

委員：回収率が保護者も教職員も年々上がっている。ほとんどの教員が出されているので昨年度より厳しい評価になっているのかもしれない。アンケートの回収は担任がするのか？

首席：生徒用も保護者用も担任が集めて職員室の箱に提出してもらう。

委員：事務室あたりに箱を置いて登校時に入れられるようにすると出しやすいのではないか。担任に渡すのは出しにくい生徒もいるかもしれない。

委員：アンケートの用紙が保護者に届いているかどうか。アンケートがあることを知らない保護者がけっこういるのではないか。PTA委員や役員をしていない保護者の方で、子どもがあまり学校のことを話さないと場合は、アンケートがあることを伝える方法を考えなければならない。

教頭：保護者の約90%が登録しているメールマガジンで周知に努めている。

首席：スマートフォンでもアンケートの回答が可能。以前まではインターネットで回答する際、1つ回答すると次のページへというボタンを押す仕組みになっていたが、今回は一つの画面で全ての項目に回答してまとめて送信できるようになったので少しやりやすくなった。

委員：試しにスマートフォンでやってみたが、簡単だった。そのような回答の仕方があることを知っていたらやってくれるのではないか。懇談などの日程調整に関しては、プリントを提出しないと担任から出すように言われるが、アンケートに関しては督促されないので子どもには出さなければならないという意識が薄いかもしれない。

首席：インターネットでも回答できることなどもあり、かつ無記名形式である為、誰が出しているか出していないかわからないので催促しにくい。今回もクラス全体に向けては担任から2、3回呼びかけた。

委員：インターネットでも回答できると、用紙と両方回答し、1人で2回送っている可能性もあるのではないか。

首席：送信直後にもう1度クリックしてしまう誤送信は集計の数からのぞいているが、用紙とインターネット両方回答されているとわからない。

(4) 平成28年度学校経営計画にもとづく取り組みの学校による自己評価

①本校生の進路状況および進路指導部の取り組み等（進路指導主事）

進路指導主事より、資料を用いて説明。

進路指導主事：公募推薦入試の受験者が、昨年264名から564名に倍増した。合格率29%で延べ人

数も実人数も昨年より増えた。自分にフィットする入試を選んだり、得意科目で受験したのではないか。短期大学は指定校推薦とAO入試で決める生徒がほとんど。専門学校は看護医療は受験者数と合格者数に差があり、なかなか厳しい部分もある。大学の看護医療系も狭き門である。現在少しずつ結果が出始めている一般入試は苦戦している。一般入試にチャレンジしている人数は多い。

1年生では職業理解、2年生ではどの方法で進路に向かうかについて考える機会を作っている。今年度1年生で実施した職業インタビューについては、昨年度はプリントでフィードバックしたが、今年度は冊子で配布して共有させた。冊子の製本は生徒も手伝った。2年生で行った進路別ガイダンスは専門学校をのぞく全ての分野の講師を本校教員が行った。ガイダンスでは、生徒の目が輝いており、終了後に質問に行く生徒も見られた。進路指導室を訪ねてくる2年生も少しずつ出てきた。2月4日の模擬試験試に関しては1年生の受験が例年より多かった。

委員：1年生のガイダンスの講師としてこれだけ卒業生を呼べているのはすばらしい。今後も続けてほしい。生徒の書いた感想もすばらしい。2年の分野別ガイダンスは先生が講師ということに驚いた。業者にお願いするケースが多いが、生徒を知っている教員が説明するのは効果的だと思う。手作り感が良い。

進路指導主事：教員が話すようになったのは昨年度から。それまではほとんど外部委託か外部講師と教員のミックス型だった。生徒を知っている教員が話す方がよい。教員側も生徒に話すためには調べたりプリントを作ったり自分たちの勉強にもなるし、やってみようということになった。実態に即して話すほうが生徒の心に響く。ただし、専門学校に行った教員はいないので外部に委託している。

委員：校内の人が話すか、外部の人が話すかで内容が違う。高校生にとっては外部のことは自分で情報を得に行くことができる。時期的にはもう少し早いほうがよいのではないかな。

委員：外部から呼ぶときは宣伝をしないように気をつけなければならない。また、専門分野に偏り、一般概説がなかなか聞けないこともある。

②学校経営計画主要指標の達成状況

校長より、今年度の達成状況を資料、データを用いて説明。

委員：◎○△の意味は？

校長：◎○は目標数値を達成しているもの。数値が前年度比上昇していても目標値に対しマイナスだと△。

委員：数値としては前年度比上昇しているものもある。たまたま目標設定より低かっただけで△。成果主義という考え方からだと思うが、頑張ったのに△だと教員のモチベーションを下げないか気になる。△だからといって物足りないことでもない。目標設定が高いのではないかな。70, 80%からさらに数値を上げるのは厳しい。

校長：絶対数値の目標値をどこに置くのが難しい。前年度比マイナスにするのは目標数値としては相応しくないと思う為、既に水準の高いと思われる項目も、若干プラスになるように設定する。

委員：ある程度幅をもたせている学校もある。中退者や成績不振による転学者は増えたりしているのか。

教頭：ここ数年少ない。

委員：進路指導に関してはアンケートを12月に取るのとそれ以降に取るので数値は変わるのではないか。3年生の1月に進路に特化したミニ自己診断をすると、自己診断よりもっと高い数値が出てくる。

進路指導主事：2月の卒業前に進路指導部でアンケートを取っている。進路実現に向けての自分の取り組みに対する満足度も聞いている。自己診断では、進路関係のガイダンス前の段階での評価しか出ない。

委員：学校評価報告書は項目によっては1月段階では評価が確定していない場合もある。1月段階ではこの評価は空欄にしておき、最終的に実施したことが反映されるデータにするとよいのでは。

委員：学年別に調査していないのか。

首席：ここには出ていないが、データとしては残っている。

委員：3年生は卒業の時に芥川高校に満足したかどうかを聞くとよい。

委員：結果から、先生方が子どもたちのために一生懸命にやってくれていることが見えてくる。子どもも中学、高校、大学だと少しずついろんなことがわかってくる。高校生になったらもっと自分のことを自分でできるようになってきているので過剰に手出ししすぎてはいけない。親に甘えているので自立が遅くなっている。自分の意見は持っているが、自立できないという状況ではないか。

教頭：本日いただいたご意見は、平成28年度の自己評価の学校協議会での意見に反映させる。

(5) 平成29年度学校経営計画案について

これから議論して目標数値等を決めていくとのこと。来年度の分掌長、学年主任等とも相談し、3月中に決めて4月に最終決定して公開する。

(6) 保護者からの意見書について

提出なし。

4. 校長謝辞

5. 連絡

・次年度委員委嘱について

次年度も委員をお願いする方には校長から連絡させていただく。

・議事録の公開について

委員の皆さんに確認いただいた後に、ホームページで公開する。

以上